

## KURADASHI.jp 会員の皆様へ

この度は、KURADASHI.jp を通じて、当財団の活動にご支援いただき心より感謝申し上げます。

当財団では未来を担う子供たちが分け隔てなく、マリンスポーツをはじめとした自然体験を楽しめる機会を提供し、児童養護施設やひとり親家庭など、体験の機会に恵まれない子供たちの`体験格差`を解消する取り組みを積極的に進めています。

**寄付金額 ￥305,870-**(受領日:平成30年6月25日)

### 『体験格差をなくしたい!』～児童養護施設、ひとり親家庭の子供支援～

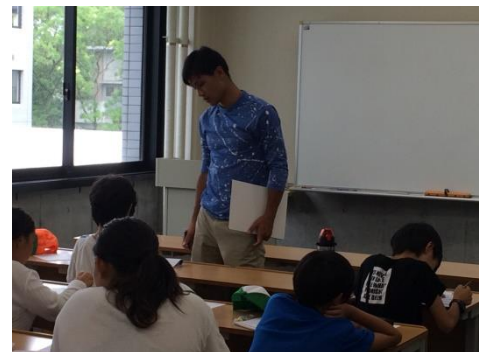
#### 【寄付金を活用した活動報告】

夏休みも終盤に入り、これから海や川、山へ出かけ、アウトドアでのレジャーを楽しんだり、宿題の自由研究や読書感想文、普段疑問に思っていることを集中的に調べたりするには絶好の機会である。子供には夏休みだからこそできる貴重な体験をし、勉強も目標を持って自主的に取り組んでほしいと願う保護者も多い。

B&G 財団では、そのような要望に応え7月下旬から8月上旬にかけ、東京学芸大学(東京都小金井市)と連携して、体験の機会が少ないといわれる都内のひとり親家庭、児童養護施設の子供たちを対象に、勉強と運動の両方に取り組む「学習&マリンスポーツ体験教室」を実施しました。

事業名	「学習&マリンスポーツ体験教室」 (東京学芸大学との連携事業)
活動期間	Aコース 2018年7月25日(水)・27日(金)・29日(日) Bコース 2018年8月5日(日)・7日(火)・9日(木)
実施場所	東京学芸大学小金井キャンパス
参加者数	児童養護施設、ひとり親家庭の子供たち 延べ44人
実施内容	各日ともに午後1時から5時まで学習会とマリンスポーツ体験会を2時間ずつ行い、東京学芸大学教育学部の学生が夏休みの宿題や一学期の復習をサポートし、B&G 財団が海や川で安全に遊ぶためのポイントや落水時の対処法、カヌーやスタンドアップパドルボード(SUP)などの体験教室を実施しました。

学習会



学習会では多くの子供が宿題の漢字・計算ドリルに取り組み、書き順や図形の面積・体積の測定、時間の計算などについて繰り返し質問した。算数が苦手な文章題になるとできなくなる子供には、問題を音読させ、質問の意味を理解するよう親身な指導を行った。中には読書感想文の添削を依頼する子供もいて、学生たちは真剣に子供と向き合っていました。

マリンスポーツ体験会



マリンスポーツ体験会では、キャンパス内のプールを使用し、1日目は水辺の安全教室、2日目にカヌー、3日目に SUP 体験の内容で行った。安全教室では背浮き、ペットボトルを使った浮き身と救助法、ライフジャケットの効用と着用時の泳法のほか、落水時に呼吸が確保できて一番楽に泳ぐことができるエレメンタリバックストロークの練習を通してセルフレスキューについて実践的に学びました。

見学した保護者の方の感想

「家で私が勉強をみているときより集中してできている」「学生の説明はわかりやすくていい」などの感想をいただきました。

児童養護施設職員の方の感想

「水泳が嫌いな子供が目を輝かせて取り組んでいた」「学校でもこうした授業を行ってくれたら水泳が嫌いな子供はいなくなる」などの感想をいただきました。

学生の感想

「児童養護施設に通う子供たちと接する機会はなかったので貴重な経験になった」「機会に恵まれない子供たちに体験する場を提供することは大切だ」などの感想をいただきました。